

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年 3月 12日

【評価実施概要】

事業所番号	0170201594		
法人名	社会福祉法人 札幌恵友会		
事業所名	グループホーム 百合が原ふぁみりあ1号棟・2号棟		
所在地	札幌市北区百合が原4丁目3-13 (電話) 011-775-7580		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成22年3月11日	評価確定日	平成22年3月29日

【情報提供票より】(平成 22年 2月 3日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 (平成) 15年 11月 21日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 15人、	非常勤 4人、 常勤換算 8.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造亜鉛メッキ鋼板葺平屋造り		
	1 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	105,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費: (4~10月) 9,000円 (11~3月) 12,000円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日あたり 780 円		

(4) 利用者の概要(3月 11日現在)

利用者人数	16 名	男性 3 名	女性 13 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名
要介護3	5 名	要介護4	2 名
要介護5	3 名	要支援2	0 名
年齢	平均 82 歳	最低 69 歳	最高 101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団札幌優翔館病院、たにぐち歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム百合が原ふぁみりあ1号棟・2号棟は木を基調とする落ち着いた造りの建物で、建物内は広々として天井も高く天窓からの採光も適度でゆったりと気持ち良い生活空間が演出されている。近くに百合が原公園があるので車椅子で気軽に出かけることができるなど環境も整っている。協力医療機関との連携が良好で、内科・精神科医師による月2回の定期的な往診や週2回の歯科医の訪問治療や口腔ケアが受けられる。業務日誌などの日々の記録や医療機関からの情報提供表など記録がしっかりと管理されており、良質なケアサービスが提供されている。外部評価についても年間計画を立てて真摯に改善に取り組んでいる。職員も利用者も笑顔が絶えず、ゆったりと毎日の生活を一緒に楽しんでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	「地域とのつきあい」「家族等への報告」「同業者との交流を通じた向上」「災害対策」など前回評価での取り組みは多くが改善されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は管理者が会議で説明し、全職員の意見を参考に管理者がまとめて会議で全職員に提示しているが、入社歴などの関係から自己評価についての理解度が浅い職員も存在するので、項目内容について話し合ったり確認し合う機会を設けることを期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、町内会長、町内副会長、地域包括支援センター職員、介護予防センター職員、家族などが参加し、予め設定しておいた防災安全対策、感染症、介護技術などのテーマなどについて話し合い意見交換も活発である。現状では3ヶ月に1度の開催ではあるが、会議の密度は年々深まってきている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	ご意見箱を玄関に設けているほか、通常から気軽に何でも話し合える雰囲気作りにも努めている。家族等からの疑問や意見に対しては誠意を持って対応している。諸事情で訪問回数が少ない家族にはきっかけを作るようにして電話をしている。重要事項説明書に外部の苦情相談機関を明示している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会に入会し夏祭りや新年会などの行事に参加している。昨年の外部評価の取り組み事項である車椅子の利用者が参加しやすい環境作りについては、運営推進会議を通して町内会の協力が得られつつある。また、近隣の保育園の子供たちが事業所の中庭を訪れてくれたり、近所の方が散歩中に声をかけてくれるなど地域との交流は深まっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	施設理念として「4つの基本理念及び方針」と、ホーム目標で「ふ・あ・み・り・あ」の頭文字から始まる5つの目標を設定している。また施設理念の中に地域密着型サービスとしての取り組みを盛り込んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設理念は、要約されたものが玄関に掲げられ、管理者と職員が「前文」と「基本理念及び方針」をカード化したものを携帯している。また、ホーム目標は、パンフレットに掲載されているが、統一性の効果がやや弱く、全職員が理念を共有するまでには至っていない。		全職員が理念を理解しやすいように「4つの基本理念及び方針」の項目を1項目ずつ一定期間順番に掲示し、ミーティングや会議の席で話題にするなどの工夫で、より明確に理念を共有できるように取り組みに期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し夏祭りや新年会などの行事に参加している。昨年の外部評価の取り組み事項である車椅子の利用者が参加しやすい環境作りについては、運営推進会議を通して町内会の協力が得られつつある。また、近隣の保育園の子供たちが事業所の中庭を訪れてくれたり、近所の方が散歩中に声をかけてくれるなど地域との交流は深まっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者が会議で説明し、全職員に2、3週間かけてガイドブックも参考にして感じたことを自由に書いてもらい、その意見を参考に管理者がまとめ、次の会議で全職員に提示している。前年の外部評価の「取り組みを期待したい項目」については、年間計画を作成し多くが改善されている。		入社歴などの関係から自己評価についての理解度が浅い職員も存在するので、自己評価表がまとまった段階で理解をより深めるために、項目内容について話し合ったり確認し合う機会を設けることを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、町内会長、町内副会長、地域包括支援センター職員、介護予防センター職員、家族などが参加し、予め設定しておいた防災安全対策、感染症、介護技術などのテーマなどについて話し合い意見交換も活発である。現状では3ヶ月に1度の開催ではあるが、会議の密度は年々深まってきている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>法人の統括管理者が事業所を代表して市・区との連絡や情報交換を行っている。事業所の運営推進会議には地域包括支援センターの職員に参加してもらい、市・区の管理者会議には管理者が欠かさず出席し市・区の担当者と交流している。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族が頻繁に訪問してくれるのでその都度利用者の日々の状況を報告している。前回の外部評価で取り組み事項であるホーム便りの発行については昨年からの取り組み、現在は行事の写真や職員の異動のお知らせなどを掲載した「ふぁみりー便り」を年4回発行し、金銭出納報告も毎月郵送している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見箱を玄関に設けているほか、通常から気軽に何でも話し合える雰囲気作りに努めている。家族等からの疑問や意見に対しては誠意を持って対応している。諸事情で訪問回数が少ない家族にはちょっとしたきっかけを作り電話している。重要事項説明書に外部の苦情相談機関を明示している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人間の異動は殆どない。担当制を取っていないので、職員の退職の際に利用者のダメージは少ない。職員を新規に採用する時は、利用者のペースに合わせられるかどうかを採用の基準にしており、引き継ぎの期間も可能ならば1ヶ月以上とっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修については、職員の入れ替わりなどの関係から去年はユニットから1人ずつの参加と従来より少なかったが、法人全体で行われる2ヶ月に1度の研修に加えて、昨年より同法人のグループホーム間での研修が年3回実施されている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者は市や区の管理者会議で定期的に他の事業所の同業者と交流しており、職員も区の研修で他の事業所との交流の機会を持っている。昨年より実施されている同法人のグループホーム間での交流研修により交流の機会が増加しており、合同の忘年会も昨年初めて開催された。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に本人や家族が事業所を見学を訪れ、納得した上で利用を決めている。見学が難しい場合は管理者が本人を訪問し、事前に馴染みの関係を築いている。利用開始後は家族と連絡を密にし、利用者が安心できるように心掛けている。家族に対しては頻りに訪問してもらうようお願いしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者には日常的に洗濯物たたみや下膳などを手伝ってもらっている。職員は利用者と家族が慈しみ合う様子から人間としての生き方を学ばせてもらっていると感じている。日々の料理に「美味しかった」という感謝の言葉や、日常のケアの場面で「私は後でいいから、他の人にして上げて欲しい」などの言葉で元気付けられ癒されている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用開始時に家族から詳しく情報提供してもらい、蓄積された情報をもとに利用者の思いや意向を把握するようにしている。通常は日常の会話や表情からも気持ちを汲み取っているが、言葉で表現が困難な利用者については家族と相談しながら気持ちに沿うように努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用開始時の介護計画は家族の要望などを聞きながら暫定プランを作成し、1週間後にカンファレンスを行い、利用者の様子や他の職員の意見、主治医や訪問看護師の意見も踏まえて本プランを作成し家族の承認を得ている。その後は毎月1回の会議で方向性を確認している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は3ヶ月ごとに見直しを行っている。体調の変化や入院などにより状況が変化した時は別途シートに詳細を記録し、随時見直しを行っている。介護計画は見直しの都度家族に直接説明し、納得の上サインをもらうようにしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>協力医療機関の医師による内科・精神科・歯科医の定期的な往診を受診できる。協力医療機関以外の受診は原則家族対応としているが、状況に応じて職員が送迎している。また、月1回職員と利用者がマンツーマンで買い物に行ける「買い物の日」を設定している。行事で外出する際は、同法人の車椅子対応のワゴン車やバスを利用できる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用開始時に、協力医療機関の内科・精神科医師による月2回の定期的な往診があることを説明しているが、かかりつけ医への受診継続は自由である。週2回の歯科医の訪問治療や口腔ケアも受けられる。協力医療機関の主治医は、往診後に利用者ごとの情報提供表も作成してくれる。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>事業所の基本的な方針や医療との連携などを文書化した「重度化した場合の対応に係る指針」を利用開始時に家族に説明して確認印をもらっている。利用開始後は、個々の状況に応じて随時家族と話し合い対応している。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>家族からの情報をもとに、声かけのタイミングや呼びかける名前や愛称など利用者の尊厳を傷つけないように注意し使い分けている。面会簿は1枚形式にしてボックスに入れてもらい、記録物はステーション内で記載し保管や管理にも留意している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>1日の基本的な流れはあるが、利用者一人ひとりのペースで希望に沿った過ごし方ができるように支援している。食事やお茶の時間、ビデオ体操の時間など一定のルールはあるが、一人ひとりのペースに可能な限り合わせている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、日頃の会話から利用者の食べたい物などを聞き、職員が交替で1週間ごとに作成している。食事の下準備や下膳など利用者のできることを手伝ってもらい、職員も利用者と同じ食事を会話しながら楽しく取っている。畑で作った野菜を収穫して食卓にのせるなど季節感のある食事の提供や、誕生日に出前のお寿司を取るなど工夫している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は10時20分頃から15時頃までそれぞれの利用者が週2回は入浴できるように支援している。声かけのタイミングや入浴時間なども個々に合わせて調節し、入浴を楽しめるように支援している。入浴を拒否する利用者には「体重を量りましょう」などの声かけで上手に誘導している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者には体調や力量に合わせて、カーテン閉め、日めくりをめくる、鉢植えの水やり、おしぼりたたみなどの役割を受け持ってもらっている。習字、編み物、裁縫、生け花、読書などの趣味を楽しんだり、カルタ、カラオケ、ボランティアによるギター演奏やフラメンコダンスなどの楽しみもある。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏季の天気の良い日は毎日でも近所の公園などを散歩することができる。近くに百合が原公園があるので車椅子で気軽に出かけている。冬季は月1回大型ショッピングセンターや有名菓子店に出かけて買い物を楽しんでいる。去年は円山動物園に行き利用者に喜ばれた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に施錠していない。玄関にはセンサーを付けて利用者の出入りを把握し、安全面に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回の避難訓練を行っているが、昨年から1回は消防署の協力のもとに行い、救急救命講習も受講した。運営推進会議で避難訓練に地域の方々の協力をお願いし、地域の参加者から前向きな意見をもらうなど環境が整ってきている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>水分や食事の摂取量は個別に全員記録し、水分は800～1100ccを基準に摂取できるようにしている。利用者の体調や摂取状況により食事の量を調節したり、食べやすいように食事形態にも配慮している。</p>		<p>栄養バランスのチェックやアドバイスを受けるために、定期的に献立を栄養士に見てもらえるよう検討していく取り組みに期待したい。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各ユニットの共用空間は、木目を基調とした落ち着いた造りで、全体的に広々としたスペースで天井が高く、天窓からの採光も適度で、ゆったりと気持ち良い生活空間となっている。利用者と職員が一緒に作った作品が室内に品良く装飾されており、廊下の突き当たりの日当たりの良い場所にはソファが配置され、利用者は各自好きなところで日向ぼっこをしたりくつろいだりすることができる。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室の入口には職員が利用者一人ひとりに心を込めて手造りした木の表札が掛けられている。全居室にトイレが備えられており、室内は使い慣れたタンスや椅子、テレビなど好みの物が持ち込まれて、落ち着いて居心地良く過ごせるように工夫されている。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。